

夕陽會報



函館市(旧南茅部町) 著保内野遺跡出土
国宝「中空土偶」

第192号 総会特集号



◇ 巻頭言 ◇

夕陽記念館の改修を喜ぶ

会長 川島孝夫

(昭和31年卒)

平成十九年度総会が六月十六日(土)、参加者各位のご協力で無事終了できました。恒例の大懇親会も六百名の参加者を集め何時もながらの大盛況の中、進められたことは誠に喜ばしい限りです。特に総会では来年に控えた夕陽会創立九十周年記念事業・行事案や母校支援事業案等の重要案件提案に対し、皆様の深いご理解

解とご協力を戴き、原案通り可決・承認いただきましたことに対して深く感謝申し上げます。このことにより記念事業の一つとして予定しました夕陽記念館の大規模改修にめどをつけることが出来、九十周年記念事業の意義をより大きなものにする事が出来たことを皆様と共に喜びたいと思います。

この夕陽記念館のことが六月二十三日、三十分番組で函館市とその周辺地域を対象としたケーブルテレビ局NCVによって「歴史風土・残したい函館」のタイトルで放映されました。その内容は建物外観のみならず内部に陳列されている数々の貴重な品に触れながら、この建物が北海道の教育を語るうえで非常に大切なものであることを視聴者に訴えるものでした。昭和四十三年、本館建て替えて取り壊しの運命にあったものを夕陽会の強い保存の働きかけにより現在の場所に移築され今日に至っているものです。白色の下見張り・三階の塔・切妻造りの屋根・正面車寄せポーチ柱頭の飾・縦

長の上がり下がりの窓等時代の流れと共に教育の歴史を見てきたこの貴重な建物も九十年の風雪に耐え切れず補修の手を待つていました。幸い今年度総会で会員諸兄姉氏の深いご理解により、九十周年記念事業の一環としてこの夕陽記念館に新しい命を与えることの出来たことを喜びたいと思います。

母校は「人間地域科学課程」として五つの専攻と十五分野を持つキャンパスとして生まれ変わりましたが、九十年続いた「教員養成」機関としての歴史と伝統の証が収納されている夕陽記念館が再整備されることは大学・地域にとっても大切な財産となることでしょう。学生諸君にも第一展示室に掲げられている「土地墾闢・人民蕃殖」の建学の精神とその由来に是非触れ「地域学・人間学」の道を研鑽する拠り所の一つにして欲しいと願っております。

二人の男が牢獄の窓から外を眺めた。一人は泥を、外の一人は星を見た」アメリカの市井の教育者・作家であるカーネギーの「道は開ける」に出てくる一文です。砂漠の近くの軍の基地に配属された夫についていった夫人があまりの厳しい環境に耐えかね「もう帰りたい」と父親に手紙で訴えるとその返事はたったこの二行だけ。然し、この二行の言葉が彼女をハッと目覚めさせ、その後の彼女の生活を一変させたという話です。

思い通りにことが進まない悲観の種ばかり探しがちになりますが、私達も母校の改編について希望に繋がることを捜さず数々の有利な条件に気づいてこなかったのではないのでしょうか。有利な条件を生かしながら発展努力を続ける母校の力強い応援団とし夕陽会も歩み続けたいと思います。皆様のご支援をお願いします。

顧問・参与会

去る平成十九年五月三十一日(木)、第五回本部役員会に引き続き、平成十八年度の顧問・参与会が細田辰男顧問、安島進顧問をはじめ多くの顧問・参与の皆様、御出席を得て函館ハーバービューホテルで開催されました。

冒頭、川島孝夫会長から大学本部の様子や母校函館校の様子等の報告の後、北海道教育大学夕陽会創立九十周年記念行事・事業に「丸」となっており「組む」とへの意気込みが語られ、挨拶が終わりました。

その後、山柿三夫副会長の進行により、本年度の本部総会の議案について、平成十八年度会務報告、会計報告、監査報告並びに平成十九年度の運営方針、推進事項、予算案について報告、協議がなされました。

特に、教育大学本部が立ち上げた大学院生への経済援助を目的とする「教育支援基金」への同窓会としての協力について、新大学院「教職大学院」構想の説明と絡めて提案があり、募金方法や会計処理について多くの建設的な意見が交わされた後、承認されました。

大懇親会

於 函館国際ホテル



挨拶をする川島会長



全国支部長会議

また、夕陽会創立九十周年記念行事・事業についても事業案、予算案等が提案され、とりわけ、記念事業の一環として計画されている夕陽記念館(北方教育資料館)の改修のための資金寄付について慎重に審議された結果、満場一致で協力していくことが確認されました。例年になく予定時間を大幅に超える会議となりましたが、最後に川島会長から慎重審議への感謝の挨拶があり閉会しました。

全国支部長会議

夕陽会総会に先立つて午後一時三十分より、二十八支部の代表の参加を得て、全国支部長会議が開催された。

花田庶務部長の司会進行で、尾島・中瀬両副会長を議長に議事が進められた。母校の現状、各支部の取り組み等の報告や平成十九年度運営方針、予算等の協議事項について話し合われた。

各支部からは、夕陽会が高く評価されていること、教職についていない会員の確保や若手会員の会の結成、会費納入割合減についてなどの報告があった。

運営方針並びに推進事項では、①財政

基盤の確立と会費納入の促進を目指す。②夕陽会創立九十周年記念行事・事業の準備。③「教育支援基金」特別会計について。④夕陽記念館の改修・整備に関する費用等が話し合われた。総会運営について拍手で承認され、この会を終えた。

総会・大懇親会

九十周年に向け始動

平成十九年度

夕陽会総会

六月十六日(土)午後四時より、平成十九年度夕陽会総会が函館国際ホテルにおいて盛大に開催された。

「夕陽讃歌」の大合唱に引き続き、挨拶に立った川島会長は新キャンパス体制二年目となった母校の動向にふれて「教員養成課程はなくなったが新課程志願者は三倍を超えて順調な学生募集が続いている。一方で教員採用試験合格者は六十六名と今年も依然として厳しい状態が続いており、一人でも多くの後継者育成にご支援をお願いしたい」と述べた。また



説明をする須藤幹事長



総会の審議風景

総会で審議される二つの重要議題①夕陽会創立九十周年行事・事業への準備作業と②教職大学院構想にともなう現職大学院生支援のための「教育支援基金」の開設についてふれ会員への協力を求めた。報告事項では、最初に平成十八年度会務・事業報告が須藤幹事長から次に平成十八年度会計報告が高垣財政部長から説明され承認された。

協議事項では、須藤幹事長より平成十九年度の運営方針及び推進事項が提案され、本年度も「創造し行動する夕陽会」をモットーに、次の事業が特に重点として掲げられた。①夕陽会創立九十周年記念行事・事業の準備②財政基盤の確立と諸会費納入の促進③第八回夕陽書道展の開催④夕陽記念館の改修及びリニューアルオープニングセレモニーの実施。

また、本年度は本部会計予算と併せて、「教育支援基金」特別会計予算及び「夕陽会創立九十周年記念事業」特別会計予算案も同時に提案された。

③「教育支援基金」の開設については教職大学院で学ぶ現職教員に対する奨学金制

平成19年度 夕陽会総会

平成19年6月16日

《夕陽会本部役員》

○は新役員。

- 会長 川島 孝夫 (昭和31年卒)
- 副会長 武田 隆雄 (昭和46年卒)
- 副会長 ○畑野 克行 (昭和47年卒)
- 副会長 酒井 充 (昭和46年卒)
- 副会長 宮下 勤 (昭和41年卒)
- 副会長 尾島 悌介 (昭和34年卒)
- 副会長 山柿 三夫 (昭和29年卒)
- 副会長 中川眞一郎 (昭和40年卒)
- 副会長 中瀬 裕義 (昭和34年卒)
- 副会長 奥寺 恒夫 (昭和17年卒)
- 副会長 中谷 匡利 (昭和42年卒)
- 幹事長 須藤 由司 (昭和52年卒)
- 副幹事長 花田 讓 (昭和55年卒)
- 副幹事長 土谷 敬 (昭和54年卒)
- 副幹事長 ○小笠原章人 (昭和46年卒)
- 監査 今野 久男 (昭和30年卒)
- 監査 松田 明雄 (昭和30年卒)
- 監査 五百川 忠 (昭和32年卒)

度という趣旨であり会員の理解を求めた。
提案後各議案はいずれも原案通り承認された。
また本年度は役員改選期ではないが一部役員交代があった。決定した本年度役員は次の通りである。

母校の新たな門出に 思いを一つにした 大懇親会

夕陽賛歌が心地よく流れる国際ホテル天平の間は、開会を待つ五十三卓・五百九十五名の夕陽会員による大きな熱気に包まれていました。そして畑野克行本部副会長の先導により来賓の方々が入場すると、会場は大きな拍手に包まれました。司会を務める花田讓本部副幹事長の進行のもと、武田隆雄本部副会長の開会の言葉により平成十九年度の夕陽会大懇親会が開幕しました。

館田聖徳先生(平成六年卒)の指揮によって、参加者全員の母校に対する思いを込めた「夕陽賛歌」が会場一杯に響き渡りました。その余韻が残る中、挨拶に立った川島孝夫会長は、「ご来賓を紹介した後、本会が盛会裡に開催されたことに對して感謝を述べました。そして、来年創立九十周年を迎える夕陽会と母校の新たな門出に對して、「新キャンパスにおいては、地域に貢献する多くの優れた人材を育てていただきたい。また、社会人に対する高等教育機関、あるいは再教育機関として、役割を果たしてほしい。我々も生まれ変わった母校を力強く支援して参りたい。」と決意を述べました。
来賓の挨拶では、工藤寿樹函館市副市長より「教育立市・人材育成都市を目指し、特色ある学校づくり、教育環境の一層の充実を図って参りたい。夕陽会には、さらなる支援を願いたい。」との言葉がありました。
忠嶋隆北海道教育庁渡島教育局長からは、「地域と共にをキーワードに管内教育の充実に向けて努力したい。夕陽会には、

未来を担う子供たちを育む教育のために尽力いただきたい。」との期待の言葉をいただきました。
続いて、藤澤義博函館青年会議所理事長より「自分たちの地域の子どもは地域で育てるをスローガンに人材育成づくりに努めている。皆さんと協力して、優秀な人材を育成し、函館市の発展に寄りたい。」とお話をいただきました。
さらに杉浦清志北海道教育大学副学長(函館校担当)が壇に立たれ、「今年と同窓会入会者が多かった。その新入会員を温かく迎えていただきたい。」として、母校に更なる支援を願いたい。」との挨拶をいただきました。

土谷敬副幹事長の祝電・祝詞披露の後、恒例の音楽科卒業生八名の合唱団による校歌が会場いっぱい響き渡り、雰囲気も一気に盛り上がりました。
岩村吉男渡島教育委員会教育長会長の「教育はロマンだ。」とのご発声で祝宴が開始されました。
会場内は各卒業年次毎の席で、若き日の記憶をよみがえらせ、旧交を温め合いながら、青春時代に戻ったように語り合う姿が見られ、夕陽会大懇親会ならではの熱気溢れる雰囲気包まれました。
その熱気に後押しされるように、フレッシュな新会員が登壇し、それぞれ



が若者らしい元気なアピールを行いました。さらには、田中健一知内町教育長より新会員に對して、期待と励ましの言葉が贈られ、新たな夕陽の同志となった六名の胸にしつかりと刻み込まれたものと思われます。
宴も佳境に入り、恒例のエールを山本公作先生(平成二年卒)の打ち鳴らす太鼓に合わせて、登壇した佐藤健先生(平成二年卒)がバンカラ調で檄を飛ばし、三三七拍子に合わせた手拍子に、会場全体が大いに沸きかえりましました。
時間も残り少なくなり、トリを飾る寮歌の大合唱が始まりました。諸先輩方が背に「夕陽」の揃いの法被姿で登壇すると、会場の雰囲気はさらに盛り上がり、小林周二先生(昭和三十三年卒)の音頭で、母校に對する思いを込めた歌声が会場全体を揺らすように響き渡りました。



余韻が覚めないまま最後の乾杯に移り、多賀谷智函館市教育長の「教育立市に向かって夕陽会の力が試される。夕陽魂を持ち、勇気を出して前に進もう。」という力強い言葉に、参会者の心が一つになり、お開きとなりました。
最後に宮下勤本部副会長の閉会の言葉により、夕陽会大懇親会も盛会裡に終了しました。
(昭和54年卒 駒場小学校教頭 戸澤 和彦記)

平成十九年度
夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努めるとともに、創立九十周年記念事業の準備を円滑に推進する。

《推進事項》

1 組織強化と運営の効率化

- (1) 会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と運営の効率化を図る。
- (2) 各界の会員動態の把握と広報活動の充実

- (3) 支部、部会等の充実と支援の強化
- (4) 教職外会員及び高等学校支部、特殊教育諸学校支部の強化

- (5) 女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画
- (6) 本部と各支部、各ブロックとの連携強化

- (7) 夕陽会報192、193、194号の発行
- (8) 母校及び附属学校園に関する情報の収集と活用

- (9) 夕陽会創立九十周年(平成二十年)記念事業の準備

2 人材の育成

- (1) 人材の発掘と会員の資質と地位の向上を図る。

- (2) 会員である道・市町村議会議員、首長、教育行政管理職等との連携
- (3) 関係機関・団体に所属する会員との連携

3 財政の確立と業務の効率化

- (1) 各支部研修活動の支援
- (2) 財政の確立と業務の効率化
- (3) 活発化する活動の維持・発展を図るため、財政の確立と財務の効率的な推進に努める。

進に努める。

- (1) 財政基盤の確立と諸会費納入の促進

進

- (2) 財政業務の効率的処理

- (3) 研究・研修の奨励と文化事業の推進
- (4) 会員による個人及び共同の研究等を奨励し、特に若手会員の研究・研修意欲の高揚を図る。

- (5) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介
- (6) 会員による文化事業等の奨励

5 母校への支援と地域への貢献

- (1) 第八回夕陽書道展の開催(平成十九年七月十一日～十六日)
- (2) 教育講演会等の開催
- (3) 母校への支援と地域への貢献
- (4) 母校の発展を願い、当面する課題解決のための支援を行う。

- (5) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援
- (6) 在学生(会員予定者)に対する同窓会意識の啓発

- (7) 夕陽未来の教師フォーラム等、就職対策関係事業への支援
- (8) 学生のスポート・文化・芸術活動への支援

6 夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・充実

- (1) 夕陽記念館の改修に合わせ、各種記念資料等の収集と適切な保存、陳列の充実を図る。
- (2) 記念資料等の収集

- (3) 夕陽記念館の改修と館内外の環境整備、陳列品の整備
- (4) 会員の作品収集と目録補遺の発行

- (5) 夕陽記念館の改修。リニューアルオープニングセレモニーの実施

夕陽会創立90周年事業協賛金・北海道教育大学教育支援基金協力金
ご支援・ご協力をお願いいたします

◎ 夕陽会創立90周年事業協賛金について

「創造し行動する夕陽会」として、会員一人一人のご支援とご協力により、平成20年には、創立90周年を迎えることができました。

現在、来年6月21日に夕陽会創立90周年記念式典の開催に向けて準備を進めているところです。また、記念誌作成、記念品等の事業も予定しておりますので、協賛金へのご協力をお願いいたします。

なお、ご賛同いただいた会員の皆様には、記念品を贈呈いたします。

現職会員	1口	1,000円	1口以上のご協力を。
OB会員	1口	2,000円	2口以上のご協力を。

◎ 北海道教育大学教育支援基金協賛金について

平成20年開設に向け、北海道教育大学から「教職大学院構想」が新たな動きとして出されました。北海道教育大学では、現職教員が大学院で学ぶための財政支援として奨学金を給付する計画でいます。

大学からの要請を受け、5校同窓会が北海道教育大学教育支援基金に賛同することにいたしました。函館校では、大学関係者、夕陽会、尚学会が協力していくことになりました。

つきましては、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

なお、賛同いただいた会員の皆様のご芳名は、会報等においてご報告いたします。

現職会員・OB会員 共	1口	1,000円	1口以上のご協力を。
-------------	----	--------	------------

夕陽会本部 事務局業務分担

庶務部

花田 讓(附属小副校長)

- 1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録
- 2 文書の收受、発送及び保管
- 3 会員の慶弔事務
- 4 その他、庶務に関する事

財政部

高垣 孝二(銭亀沢中長)

- 1 通常会費の徴収、支出事務
- 2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務
- 3 予算書、決算書の作成
- 4 前納会員に関する事務
- 5 その他、財政に関する事

組織部

土谷 敬(附属中副校長)

- 1 支部組織の編成と組織強化対策
- 2 会員の動態調査(支部別、校種別会員名簿)
- 3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集
- 4 その他、組織全般に関する事

情宣部

伊勢 昭(久根別小長)

- 1 「夕陽会報」の発行
- 2 事務局報の発行
- 3 その他、情宣に関する事

web委員長

熊谷 光洋(中ノ沢小長)

- 夕陽会ホームページの作成とその管理

文化部

玉手 道男(西中長)

- 1 会員の文化活動に対する支援
- 2 文化事業(音楽会・美術展・書道展等)の企画、実施
- 3 その他、文化に関する事

研修部

鈴木 祐司(中央小長)

- 1 会員の地位向上対策
- 2 会員の個人及び共同研究への助成
- 3 支部・ブロックにおける研修活動に対する支援
- 4 その他、研修に関する事

厚生部

武田 誠(北昭和小長)

- 1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施
- 2 記念資料及び会員の作品収集
- 3 夕陽記念館の整備、充実
- 4 その他、厚生に関する事

体育研究室同窓の会

主催/北海道教育大学函館校体育研究室同窓の会
 と き/平成19年11月10日(土)
 総会…午後5時30分 懇親会…午後6時
 ところ/ホテル法華クラブ函館

*たくさんの方々参加をお待ちしております。
 *後日、ご案内を郵送いたします。

連絡先 池田 靖秋(附属中学校)
 yasuaki@cc.hokkyodai.ac.jp 電話 0138-46-2233
 榎山 聡(附属小学校)
 fhara@cc.hokkyodai.ac.jp 電話 0138-46-2235

受賞(章)おめでとうございます
 ＊瑞宝双光章

藤原 康里 氏 昭和22年卒
 札幌市手稲区新発寒六の一〇の三四

津坂保比古 氏 昭和24年卒
 岩見沢市七西一七の六の二〇

阿部 義行 氏 昭和34年卒
 七飯町大川三の三の二三



夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはweb委員会により、刷新されてから4年が経過しました。現在まで、約19,000人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページ の主な情報

会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み
 会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過
 母校90周年記念式典、支部・本部掲示板
 本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報
 渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」
 母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/>

情宣部web委員会委員長 熊谷光洋(昭和50年卒)

平成十九年度夕陽會本部役員名簿

會長 函館市深堀町35-24 川島孝夫(昭和31年卒)

副會長 函館市立駒場小学校校長 武田隆雄(昭和46年卒)

函館市立五稜中学校校長 畑野克行(昭和47年卒)

北斗市立上磯中学校校長 酒井充(昭和46年卒)

函館市立潮見中学校校長 宮下勤(昭和41年卒)

函館市湯川町2-43 尾島梯介(昭和34年卒)

北斗市押上2-3-10 山柿三夫(昭和29年卒)

乙部町字栄浜48 中川眞一郎(昭和40年卒)

札幌市西区福井2-3-25 中瀬裕義(昭和34年卒)

三沢市中央町3-10-24 奥寺恒夫(昭和17年卒)

青森市道道1-9-28 中谷匡利(昭和42年卒)

北海道教育大学附属函館幼稚園園長 須藤由司(昭和52年卒)

北海道教育大学附属函館小学校副校長 花田花枝護(昭和55年卒)

北海道教育大学附属函館中学校副校長 土谷士郎(昭和54年卒)

北海道教育大学附属特別支援学校副校長 小笠原章人(昭和46年卒)

函館市約場町5-3 高橋正雄(昭和18年卒)

函館市深堀町38-38 辻馨(昭和20年卒)

函館市柏木町2-17 田中久(昭和33年卒)

函館市北美原2-13-12 信田利之(昭和33年卒)

北斗市常盤1-15-20 加藤宏文(昭和34年卒)

函館市住吉町17-18 池上信廣(昭和37年卒)

函館市榎本町6-20 繪面和子(昭和39年卒)

函館市桔梗4-5-6 網野重治(昭和40年卒)

函館市立潮見中学校校長 三島俊博(昭和47年卒)

北斗市立沖川小学校校長 黒崎勇司(昭和49年卒)

函館市立潮見中学校教頭 中谷満(昭和52年卒)

北斗市立石別小学校校長 細川敬太郎(昭和53年卒)

函館市立潮見中学校校長 今野久男(昭和30年卒)

森町字森川町303-61 松田明雄(昭和30年卒)

函館市花園町5-10 五百川忠(昭和32年卒)

北海道教育大学副校長(函館校担当) 杉浦清志

函館市花園町40-13 西村賢三郎(昭和4年卒)

北斗市常盤1-13-3 上田嘉一(昭和5年卒)

東京都東久留米市学園1-13-4 三枝三郎(昭和9年卒)

札幌市南区真駒内緑町 浅井好二(昭和11年卒)

函館市五稜郭町41-9 細田辰男(昭和11年卒)

函館市杉並町23-7 瀨川直光(昭和19年卒)

函館市柏木町40 安島福進(昭和24年卒)

名古屋市守山区小幡北 秋原忠臣(昭和5年卒)

函館市杉並町13-3 深澤剛(昭和8年卒)

函館市千歳町27-8 小川公也(昭和9年卒)

函館市本町22-33 加藤彬(昭和11年卒)

函館市藤野町24-15 高坂藤吉(昭和15年卒)

函館市東山2-17-8 北川省吾(昭和15年卒)

札幌市豊平区西岡4-5-5-8 上元啓紀(昭和17年卒)

札幌市南区川沿1-4-9-3 大場光栄(昭和17年卒)

函館市本町2-13-5 竹野日日栄(昭和18年卒)

函館市梁川町22-2 西谷富士雄(昭和18年卒)

函館市松陰町3-24 敷田幸作(昭和18年卒)

函館市元町4-7 八木幸夫(昭和19年卒)

東京都杉並区下高井戸5-19-1 木下邦茂(昭和20年卒)

函館市本町20-13 名東陽吉(昭和22年卒)

函館市川原町13-2 大坂昭雄(昭和22年卒)

函館市銭亀町245-39 赤泊昭吉(昭和23年卒)

函館市深堀町40-11 山尾広正(昭和23年卒)

札幌市西区寒寒7条 中山素水(昭和24年卒)

札幌市東区伏古7-2-4-35 町田治雄(昭和24年卒)

函館市柏木町81-5 三上以蔵(昭和24年卒)

函館市戸倉町19-12 吉田正巳(昭和25年卒)

北斗市本町740-11 青彦(昭和25年卒)

函館市本町1-12-11 大淵亮三(昭和26年卒)

七飯町大中山3-303-21 杉山利夫(昭和27年卒)

知内町三ツ元301-2 田村島松隆(昭和28年卒)

札幌市中央区北2西21-2-17 福島俊也(昭和28年卒)

函館市大川町4-43 山田富雄(昭和28年卒)

北斗市東浜1-12-30 田中則夫(昭和28年卒)

函館市柏木町16-6 田中俊也(昭和29年卒)

函館市本町17-2-602 北林秀男(昭和29年卒)

函館市本町17-2-3 永谷潤一(昭和29年卒)

函館市神山3-18-20 森野重雄(昭和30年卒)

函館市山の手2-36-7 富尾勝(昭和30年卒)

函館市桔梗町5-21-32 大島安長(昭和30年卒)

函館市松川町42-15 小林信夫(昭和31年卒)

札幌市稲枝区金山2-1-6-2 伴伊達伊夫(昭和31年卒)

八雲町教育委員会教育長 岩村岩吉(昭和31年卒)

函館市湯川町2-35-7 加藤弘(昭和32年卒)

江別市大麻中町26-18 小本毅(昭和32年卒)

函館市富岡町1-12-12 田村志朗(昭和32年卒)

北斗市常盤1-20-1 磯部正博(昭和32年卒)

旭川市緑が丘3-2 藤谷利春(昭和32年卒)

函館市青柳町1-20-50 野田義成(昭和32年卒)

函館市深堀町2-8 高村昭三(昭和33年卒)

札幌市厚別区大谷地5-1-15 守山和男(昭和34年卒)

函館市赤川町57 中島征士(昭和34年卒)

函館市川原町4-24 金山正智(昭和35年卒)

函館市美原2-26-9 石岡博心(昭和36年卒)

北斗市本町133-34 山内脩介(昭和36年卒)

函館市見晴町9-8 小澤勲(昭和37年卒)

札幌市厚別区厚別東2条4-10-3 青野昌勝(昭和37年卒)

七飯町中野48-7 小浅悋司(昭和37年卒)

函館市東山1-11-2 札内征男(昭和37年卒)

函館市富岡町2-59-9 笹原志郎(昭和38年卒)

函館市教育委員会教育委員 橋田恭一(昭和39年卒)

七飯町大沼町297-9 森下英治(昭和39年卒)

函館市本町2-7-18 渡利正義(昭和39年卒)

函館市深堀町18-3 吉田恵悦(昭和39年卒)

函館市結梗2-4-38 石坂新一(昭和40年卒)

函館市川原町18-2-405 古旗英捷(昭和41年卒)

函館市深堀町14-29 齊藤孝(昭和41年卒)

函館市深堀町7-16 長谷川良任(昭和41年卒)

函館市川原町18-10-503 天野哲征(昭和41年卒)

函館市結梗町59-197 田中洋(昭和42年卒)

函館市西旭岡町2-23-3 寺岡昭治(昭和42年卒)

函館市深堀町16-2 門脇正和(昭和42年卒)

函館市山の手1-27-12 小山内武弘(昭和42年卒)

函館市八幡町2-7 伊藤皓嗣(昭和44年卒)

北海道議会議員 多賀谷智智(昭和45年卒)

北海道的議会議員 平出陽子(昭和46年卒)

知内町重内31-130 田中健一(昭和49年卒)

函館市議会議員 小山西直子(昭和54年卒)

函館市万代町2-15 松宮健治(昭和55年卒)

平成十九年度 支部役員名簿

(札幌市)

長 小西雅夫 昭47 札幌市 北辰中長
副 小原章善 昭46 札幌市 太平南小長
幹 坂本芳明 昭46 札幌市 星置東小長
副 三橋誠司 昭46 札幌市 平岡中長
会 笹原彰夫 昭46 札幌市 平岡公園小長

(石狩)

長 竹内昌直 昭45 北広島市 大曲東小長
副 原井論 昭46 札幌市 対雁小長
副 高浜正行 昭48 千歳市 祝梅小長
副 高村雄二 昭46 札幌市 柏陽小長
幹 高田久雄 昭48 北広島市 緑陽小長
会 中村正恵 昭49 千歳市 高台小長

(後志)

長 金子正博 昭46 倶知安町 倶知安小長
副 渡辺秋雄 昭46 島牧村 島牧小長
副 横川悟 昭49 岩内町 岩内西小長
幹 長谷川誠 昭53 神恵内村 神恵内小長
会 新井融 昭59 倶知安町 倶知安小長

(小樽市)

長 清橋義人 昭49 小樽市 稲穂小長
副 内山哲男 昭51 小樽市 祝津小長
副 本間勝美 昭53 小樽市 松ヶ枝中長
幹 堀谷和則 昭54 小樽市 長橋中長
会 堀智行 昭62 小樽市 稲穂小長

(上川)

長 石川博美 昭49 旭川市 台場小長
副 井上松博 昭47 旭川市 末広小論
副 近藤初美 昭54 愛別町 愛山小頭
幹 森将人 昭57 中富良野町 南中小頭
会 平井佐知 昭10 富良野市 扇山小論

(宗谷)

長 山口潤 昭48 稚内市 声間小長
副 池田忠喜 昭48 浜頓別町 浜頓別小長
副 大野敏隆 昭48 船泊小長
副 野坂修司 昭47 浜頓別町 下頓別小長
幹 島田勇 昭51 稚内市 上勇知中長

(留萌)

長 秋葉良之 昭48 更岸小頭
副 熊倉一弘 昭48 焼尻小頭
会 中野めぐみ 昭48 増毛町 別荘小論

(檜山)

長 吉田正昭 昭46 江差町 南が丘小長
副 青坂榮廣 昭46 江差町 江差北小長
副 藤ゆき子 昭46 今金町 今金中長
幹 林邦彦 昭46 乙部町 栄浜小長

(渡島)

会 小田晴久 昭46 江差町 江差北中長
長 黒崎勇司 昭49 北斗市 沖川小長
副 小川秀雄 昭50 長万部町 長万部小長
副 小川基英 昭49 松前町 原口小長
副 竹内良容 昭48 木古内町 木古内小長
幹 細川敬太郎 昭53 北斗市 石別小長
会 佐藤幸男 昭56 福島町 福島小頭

(函館市)

長 三島俊博 昭47 函館市 潮見中長
副 碓田幸信 昭49 函館市 南本通小長
副 八木裕 昭54 函館市 南北海道教育センター長
幹 中谷満 昭52 函館市 潮見中頭

(空知)

長 石井秀樹 昭46 美唄市 東中長
副 山下浩 昭50 岩見沢市 栗沢中長
副 杉野幹夫 昭53 月形町 礼比内小長
幹 南高勇 昭49 歌志内市 西小長
会 南條宏 昭57 岩見沢市 東光中頭
会 山崎優 昭55 岩見沢市 美流渡小頭

(胆振連合)

長 宇野敏昭 昭46 伊達市 伊達中長
副 堀田隆 昭46 伊達市 伊達中長
副 問谷英克 昭49 伊達市 達南中長
副 清水利明 昭48 洞爺湖町 虹小長
幹 中澤利明 昭51 白老町 白老小論
会 花田啓光 昭4 壮瞥町 壮瞥小論

(苫小牧市)

長 荻野雄一 昭46 苫小牧市 大成小長
副 佐藤俊春 昭47 苫小牧市 沼ノ端小長
副 川端則明 昭48 苫小牧市 東中長
副 小川玉章 昭51 苫小牧市 駒大苫小牧高長
副 納博紀 昭51 苫小牧市 啓北中長
副 川上博 昭52 苫小牧市 明野小長
副 小澤範男 昭52 苫小牧市 樽前小長
副 澤谷佳典 昭53 苫小牧市 明野中長
副 村瀬雄三 昭53 苫小牧市 凌雲中長
幹 山形淑 昭47 苫小牧市 明德小長
会 松山知憲 昭62 苫小牧市 豊川小頭

(室蘭市)

長 長谷川清敏 昭48 室蘭市 日新小長
副 松坂雅行 昭47 室蘭市 高砂小長
副 北嶋重幸 昭48 室蘭市 東明中長
副 後藤寿子 昭51 室蘭市 白鳥台中長
幹 南部務 昭52 室蘭市 星蘭中長
会 太田憲明 昭54 室蘭市 大沢小頭

(日高)

長 中村道明 昭46 新ひだか町 三石小長
副 保科昭三 昭47 新ひだか町 静内中長
副 鳥井政夫 昭47 日高町 富川小長
副 小笠原進也 昭49 新冠町 明和小長
幹 久保田達也 昭55 平取町 平取小長
会 納健二 昭52 新ひだか町 静内小頭

(十勝)

長 徳成達廣 昭46 更別小長
副 水戸剛 昭44 上士幌町 上音更小長
副 金子章 昭46 幕別町 古舞小長
副 安田正司 昭46 鹿追町 瓜幕小長
副 伊藤治久 昭47 鹿追町 鹿追小長
幹 藤代和昭 昭49 足寄町 足寄中長
会 千葉正夫 昭51 山広尾町 音津津小長

(帯広市)

長 金禮子 昭47 帯広市 森の里小長
副 高橋正紀 昭58 芽室町 白樺学園高論
副 山田知史 昭52 帯広市 南町中論
幹 花井豊 昭57 帯広市 帯広第四中頭
会 今森雅仁 昭56 帯広市 広野小頭

(釧路)

長 佐々木直機 昭45 釧路町 別保中長
副 野呂幸生 昭48 厚岸町 床潭小長
副 磯田洋三 昭49 標茶町 磯分内中長
幹 磯部昇 昭52 標茶町 虹別小長
幹 鳴海厚 昭58 釧路市 仁々志別小頭
会 磯部裕美 昭52 釧路市 白糠小論
会 木越裕美 昭10 釧路市 昭和小論

(根室)

長 小林哲世 昭45 中標津町 計根別小長
副 三好政己 昭45 別海町 別海中央小長
副 大井誠郎 昭49 別海町 上西春別中長
幹 盛繁治 昭57 中標津町 武佐小頭
会 打川真由美 昭62 中標津町 中標津東小論

(網走連合)

長 浪岡康二 昭48 北見市 中央小長
副 小林浩路 昭49 紋別市 潮見中長
副 斉藤房生 昭50 西興部村 上興部小長
幹 高田英昭 昭49 小清水町 中斗美小長

(高等学校)

長 野田直規 昭48 室蘭市 北海道室蘭清水丘高長
副 小田義成 昭32 函館市 遺愛女子高長
副 宮下勤 昭41 函館市 函館大学付属稲穂高長
副 六水正 昭48 江差町 北海道江差高長
副 小玉章 昭48 苫小牧市 駒澤大学附属苫小牧高長
幹 三塚弘 昭55 江別市 北海道野幌高頭

(特殊教育諸学校)

長 島津彰 昭48 七飯町 七飯養護学校長
副 田中了治 昭49 北広島市 白樺高等養護学校長

(青森津軽)

副 福井一之 昭54 鷹栖町 鷹栖養護学校長
副 矢口明 昭60 札幌市 特別養護センター警課長
幹 小笠原章人 昭46 函館市 附属特別支援学校副校長
長 白取清彦 昭46 青森市 東陽小頭
副 渡邊和雄 昭51 青森市 県教育庁支庁教育事務所
副 川村裕司 昭56 青森市 青森市教委社会教育課
副 湯田秀樹 昭55 八戸市 八戸第一高等養護学校論
会 工藤幸子 昭57 青森市 青森第二高等養護学校論

(青森西北五)

長 高橋宏彰 昭59 板柳町 板柳南小論
副 野上四郎 昭18 中泊町 北津軽中泊町尾木亭喜喜1933
幹 木村修治 昭61 鯉ヶ沢町 舞戸小論
会 長谷川州子 昭53 つがる市 森田小論

(青森南部)

長 岩間和章 昭50 五戸町 五戸小
副 金谷誠一 昭46 八戸市 八戸第一養護学校論
幹 小川俊也 昭59 八戸市 江陽中論
会 小笠原一男 昭54 いらせ町 甲洋小論

(秋田)

長 菊池信和 昭56 北秋田市 鷹栖西小頭
副 沼良樹 昭52 山本町 山本中論
副 黒沢薫 昭57 秋田市 秋田山平山尊喜喜7多1
幹 近藤誠輝 昭57 能代市 浅内小論

(岩手)

長 田面茂樹 昭48 奥州市 東水沢中長
副 村上政悟 昭51 紫波町 紫波第一中長
副 熊谷勇夫 昭52 花巻市 太田小長
副 山口祐子 昭33 宮古市 宮古市緑が丘2-3
幹 山口道明 昭57 陸前高田市 米崎小頭
会 宮守明美 昭55 一関市 上折壁小頭

(宮城)

長 武井晃 昭31 田松島町 松島町磯崎字割波4-16
幹 嶋田晋 昭44 多賀城市 多賀城中長
庶 鈴木教生 昭30 米山町 登米郡米山町字松崎新町7-1

(埼玉)

日 置哲朗 昭46 さいたま市 春岡小頭

(千葉)

長 杉本征年 昭40 東京都 江東区木場2-8-7-1901
副 近藤隆 昭44 浦安市 浦安市教育小長
副 荒澤正範 昭46 松戸市 高木第二小長
幹 長澤美樹彦 昭44 浦安市 茂原市東部台3-8-1-3
会 高橋紀彰子 昭52 渋谷区 笹塚小長
副 森孝 昭45 国分寺市 第一小長
幹 相川哲也 昭55 竹野市 矢口東小長
会 石田恒久 昭55 竹野市 第三小論
会 巨勢陽江 昭46 中野区 若宮小論

就任ご挨拶



就任にあたって思うこと

副会長 畑野克行
(昭和47年卒 函館市立五稜中学校長)

このたび、函館市中学校長会長の就任に伴い、夕陽会の副会長をも同時に務めることになりました。どのようなお手伝いができるのか心許無さを感じています。思い起こしてみますと、初めて教育行政に携わり、宗谷教育局の指導主事として稚内に赴任したときのこと、厳寒の地で夕陽出身者の活躍を見聞きし、大いに心打たれました。何年か振りでの集いを開催したのですが、様々な思いの中で、「函館に帰りたいと思いつつ、宗谷の教育に携わって三十年になります。もう函館には帰る住処もありません」と語った方。「自分は宗谷出身なので、この地の子どもたちの教育に一生をかけるつもりです。」と明るい笑顔を見せた方。それぞれ

れの思いは一樣ではないのですが、心の奥底に、函館という同じ地で青春時代を過ごしたという帰属の意識が、心のつながりをより強いものにしていくように思えました。北海道教育大学函館校には、すでに、教員養成の学部はありません。大学は、新たなポリシーと見直しをもって、大学の経営、学生の教育に邁進することになります。受け継がれるべきものは、母校は「ぐんぐんできた「開拓魂」、進取の気性」である「夕陽の心」です。これまでの伝統に新たな風を吹き込ませながら、「夕陽の心」の継承に微力ながら努めてまいります。



微力ながら

(昭和46年卒 北海道教育大学附属特別支援学校副校長) 副幹事長 小笠原 章 人

このたび、附属特別支援学校副校長という立場から、副幹事長の任を仰せつかりました。先輩諸氏が築かれた夕陽会の歴史と伝統を受け継ぐべく、今回こうして重責を担うこととなり、戸惑いと気の引き締まる思いを感じております。力不足ではありますが、一層の努力をもって職務を全うしたいと思っております。

れたこと。そして、「若い樹」の作詞者大先輩石坂新一様から、当時の秘話を含め激励をいただいたことです。お二人を目の前にし、夕陽同志が一堂に会し、絆を深め合うたびに歌う「夕陽讃歌」を想い、我が若き学生時代、蹴球部の友と酒を酌み交わしては歌った「若い樹」を思い出しました。嗚呼夕陽の心ここにありを確信した瞬間でした。お二人に心から感謝申し上げます。

さて、過日開催されました大懇親会に出席した折りに、夕陽会の歴史の厚みと輝き、そして、同窓の一員である誇りをしっかりと再確認できました。それは、「夕陽讃歌」の作詞者大先輩佐藤任様にご登壇され、歌に込めた熱き想いを語ら

「創造し行動する夕陽会」を指針とし、本会のために微力ながら精一杯の貢献をしたいと思っております。会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成20年度
**全国支部長会議，本部総会，
 夕陽会創立90周年記念式典・祝賀会**

❖ 期 日 平成20年6月21日(土)
 ❖ 開催地 函館市

○平成20年度全国支部長会議	11:00~13:00
函館ハーバービューホテル (函館市若松町14-10) Tel 0138-22-0111	
○夕陽会創立90周年記念式典	14:00~15:00
函館ハーバービューホテル	
○平成20年度総会	15:30~16:30
函館ハーバービューホテル	
○夕陽会創立90周年記念祝賀会	17:30~20:00
函館国際ホテル (函館市大手町16-9) Tel 0138-23-6161	

※案内状は前納会員は1月、現職会員は4月にお届けします。

書籍紹介

「北の教育と人づくりを求めて」

北海道教育大学学長

村山 紀昭 氏著

本書は、平成十一年、北海道教育大学の学長に就任され、それから八年間、「法人化」と「再編」という、教育界が特に注目する開学以来の大改革に取り組んだ学長としての記録であります。

本書は単なる学長としての活動記録にとどまらず、誰にでも国立大学の苦悩の姿が感じてもらえることができるような全体の構成になっています。

全体が四章に分かれ、一章は、法人化前後から学外有識者委員として応援してもらっていた三人の方々との対談が載せられています。

大学関係者との議論では得られない広い視野からの発言で大きな示唆が述べられています。

次の章は、大学改革の取り組みのエッセンスを出版物として発表したものの中から集められています。

三章は、教員養成教育に関するまとまった三つの文章が載せられています。

最後の四章の「北海道教育大学再編と法人化への歩み」は、八年間の取り組みの跡を毎年の年頭挨拶を中心に記録したのになっっています。

全国十一ある教員養成大学の中では、最大規模の大学です。それを、まとめ上げ、八年間学長として、渦中の人として、生活されてきた大変貴重な記録と学長の思いが述べられている著書です。

(昭和49年卒 北斗市立久根別小学校長 伊勢 昭記)

「風さわやかに心地よく」

白樺高等養護学校長

田中 了治(昭和49年卒)氏著

田中了治氏は、平成十六年四月から平成十九年三月までの三年間、釧路教育局長として在職。この度の釧路からの離任にあたり、「風さわやかに 心地よく」と題した一冊の本を出版。

田中氏は、在職中に各種の研修会や研究会等に招かれ、本人曰く、「のべ四十回を超える」講話を行っている。それに会議等での挨拶も含めると数知れず。本人が「人使いの荒い釧路！」と感想を漏らすほどの回数となった。この本は、その中から七つを選び、それに七つの随筆を加えてまとめられている。

本の出版は、釧路校長会の要望によるもので、校長会長はあとがきで「私どもの強引な要望に応えていただいた。座右の銘の一冊として大切にしたい。」と書いている。更には、「いい話だった、気持ち温かくなるね」との声が聞かれた。

「教育の一番大切なものを思い起こしてくる」「仲間」との声も実感に値する」とも書いている。

あとがきにあることは、釧路の教育関係者みんなが感じていることだと思ふ。教師としての経験をもとにした話は、学校経営の指針となり、教育の有り方を考えさせられるものであり、教育への夢や希望や勇気が沸いた。時折入る書・スポーツ・料理等の話が、また面白い。釧路に、爽やかに心地よい風が吹き渡った。

(昭和49年卒 標茶町立磯分内中学校長 菅田 洋三記)

「子らの前に」

夕陽会本部総務

清 清橋 義正 氏著 (昭和18年卒)

本書は、昭和五十七年(一九八二年)に発行したものを本年二月に再発行したものです。初版は、著者である高橋正雄氏ご退職前年に、それまでの自校の現職教育の一環として発行してきた教職員向け学習プリント(ガリ版刷り)をまとめたものを原本にしたのだそうです。

現夕陽会総務をお務めの高橋氏の四十年間の教員生活、中でも十六年に及ぶ校長としての確かな実践に裏付けられた教育論が展開されており、ゆとりとは「学力とは」「子供を知ろう」「よい指導者とは」などの百を超える項目を『子らの前に立つ』『小さな事件』『心の豊かさをつくるもの』の三部で構成しており、現在の教育課題とも関連する内容で、大変読みやすくなっております。

あとがきに「未来は現在の充実の中に永遠に続く、とにかく、子どもをよく知って専心教育に励むことが教育の専門職といわれる教師の責務である」と記されているように、『子どもは先生によって変わる』という真理を基底とした、教師としての力量の向上と責務について多くの示唆を与えてくれる教育書であります。

(昭和49年卒 函館市立北美原小学校長 秋元 順一記)

※若干残部があります。

ご希望の方は本部事務局まで。

寄贈図書です。記念館でご覧ください。

バスケットボール部OB会 海峡クラブ

と き/平成19年11月23日(金)
総会…午後5時30分 懇親会…午後6時
ところ/フィットネスホテル330函館

*たくさんの方々の参加をお待ちしております。
*後日、ご案内を郵送いたします。

連絡先 横井 明 (亀田小学校)
電話 0138-41-3370 F A X 0138-41-3378



himamoto Printing Corporation

より高い価値の創出を目指して

ハインレット・チラシ・総合デザイン・広告・企画
出版編集(記念誌・会報・社史・自費出版等)
ビジネスフォーム・一般伝票

株式会社 島本印刷

〒040-0053 函館市末広町13番27号
TEL.0138-26-1201 FAX.0138-26-0158
E-mail simamoto@palette.plala.or.jp



函館校の就職支援センターと就職支援事業

就職支援センター長 長谷 昭
(函館校教授)

今回は、昨年度より発足しました「就職支援センター」について記事をお願いしたい旨の要請を受けました。一年半ほど前に、「函館校の就職状況と就職対策について」と題して、本会報に記事を掲載させて頂きましたが、その後大きく情勢が変化したこともあり、一部重複することを覚悟しつつ、執筆させて頂きました。まずすでにご存じの通り、函館校は新課程を集約した人間地域科学課程として改組し、二回目の新入生を迎えました。そして来年度後期から、第一期生が就職活動を本格化させることとなります。この一期生に対する入学時における進路希望調査では、割合は減ったものの、入学生の四〇％が教員となることを希望していました。しかし、今年度の入学生では三二％に減少し、民間企業を希望する学生が三六％を占めて逆転しました。また、官庁への就職希望者も二〇％います。

このように、最近の教育と教員を巡る厳しい政治的・社会的情勢にも影響されてか、教員志望は減少傾向を示し、これが今後とも加速する可能性があります。今までは、教員養成を主とする大学として、教員への採用率（臨時採用等を含めて）が、全学のみならず函館校に対しても重要な評価基準であり、全国的にも厳しい採用状況の中でも「かなり頑張っている」と評価されてきました。しかし、これからは、函館校の就職は、一般

大学と同じような目で見られることになりましょう。その点では、今年三月の函館校卒業生の七一％（臨時採用も含めて）という低い就職率（五月一日現在）が、全国平均が九六％と言われている中で、目立ちます。このような状態が今後とも

続くならば、函館校の社会的評価の下落↓受験倍率の低下↓学生の質の低下↓更なる就職率の低下という悪循環に陥り、ひいては、国立大学法人としての厳しい評価にさらされて、本校の存亡にかかわる危機的状況に至る危険性があります。さて、このような危機意識の中で、就職支援センターを昨年度発足させました。センター員は、副学長委嘱の三名の教員（センター長と副センター長二名）の他に、五専攻からそれぞれ選出された五名の教員、事務職員二名、そして、就職専門の非常勤スタッフであるキャリア・オーガナイザーと二人の就職相談員の計一三名です。また、専用の部屋（センター室）があります。就職支援に関する日常的業務は、事務職員が窓口及びマネージメントを担当しており、またキャリア・オーガナイザーと就職相談員が、学生の就職試験終了時まで献身的に相談及び指導を行っています。しかし、残念ながら、大学教員の貢献度は、新旧課程の過渡期にあつて多忙なこともあり、まだまだ不十分な状態です。これを高めることが今後の大きな課題と言えましょう。

本センターの一番の就職支援に関する

任務は、センター発足のいきさつからもお分かりのように、今まで手薄であった民間企業への就職対策です。しかし、引き続き教員希望の学生が一定数を占めていますし、また、公務員志向も強いので、これらの学生に対する支援活動も同時に強化する必要があります。また、何よりも、ここ二年間は旧課程の学生の就職支援活動が中心ですので、この活動をも強化する中で、来年度に控えた新課程学生の就職活動に対する支援業務内容を確立する必要があります。そこでここでは、主に、新課程の学生を対象とする支援事業について紹介致します。

まず、一年次学生を対象に、様々な職業を知り、正しい職業観を持ち、働く社会人に向けての目標と目的意識を早めを持つてもらうために、「進路開発の基礎」という授業を開設しています。その際に、講義ノート代わりに記入式の「キャリア・ノートI」を配布しています。次いで二年次学生に対しては、今までは空白でありましたが「進路開発I」の授業を新設し、民間企業、官庁、そして教員の進路別三クラスに分けて授業を行います。ここでも、キャリア・ノートIIを配布します。三年次学生に対しても、進路別の「進路開発II」の授業を開講し、さらなるキャリア・アップをはかるとともに、キャリア・ノートIIIを配布します。これら三冊のキャリア・ノートを合冊して復習することにより、特に民間企業への就職対策の強力なツールとなることを期待しています。四年次では、教員採用試験の直前対策を目的とした進路開発IIIを開講し、合格率アップを目指します。

以上のように年次計画で行われる授業が基本ですが、さらにそれを補足し実践

的に補強するために、「はこだて校就職短信」の季刊による発行、各分野で活躍している人材を講師に依頼しての「キャリア・アップ講座」、教員や公務員を目指す学生を対象とした集中講座や模擬試験の実施、民間企業への就職希望者を対象とした就活シャトルバス（無料）の運行、更に学内での合同官庁説明会や合同企業セミナー及び函館地区国公立三大学合同企業説明会の開催、そして、各種就職関連書類（エントリーシート、自己推薦書等）の添削指導、小論文添削指導及び面接指導等、年中行事で様々な事業を展開しています。

三十年以上に卒業された会員の皆さんは、「ここまでやるか」と思われるかもしれませんが、自己責任でやるべきだとする考えが根強く残っています。それによって九〇％を超える就職率を確保することが出来るのならば良いのですが、現実には厳しい競争社会が続いています。団塊の世代の大量退職を直前にして、企業もまた特に首都圏や中部・関西圏の教育界も、人材を求めています。同時に、定年を迎えるとはいえず、済みの有能な人材は沢山います。従って、採用側も、かつてのバブル期とは異なり、無理に採ろうとはせずに、人物を十分見て採用する傾向が強くなります。その目になかなかなければ、希望通りの就職は無理となります。

夕陽会会員の皆様方には、特に教員採用試験対策では多大なご支援を頂いてきました。今回の改組・再編により、特に民間企業での新たな就職先の開拓が重要な課題となっています。この方面において活躍されている会員の皆様方のご支援・ご協力を、切にお願い申し上げます。

前納会費納入会員名簿追加分

夕陽會員計報

Table listing members with columns for name, address, and birth date. Includes names like 天野聰, 櫻田和雄, 小寺憲雄, etc.

Table listing members with columns for name, address, and birth date. Includes names like 土井利夫氏, 函館市東山2の3の11, 山本利夫氏, etc.

(平成十九年七月九日現在)

夏井邦夫先生(S40年卒)御退官記念感謝の会

主催/函館国語会・国語研究室同窓会
とき/平成19年11月17日(土)午後6時30分~
ところ/ホテル函館ロイヤル

*たくさんの方々の参加をお待ちしております。
*詳細案内、参加申込はeメールか電話でお問い合わせください。

連絡先 内藤 一志 (教育大学)
naito@cc.hokkyodai.ac.jp 電話0138-44-4246
川野 靖幸 (附属小学校)
fhkawano@cc.hokkyodai.ac.jp 電話0138-46-2235

Table listing members with columns for name, address, and birth date. Includes names like 大原哲一, 森武幸, 沼崎一男, etc.

(平成十九年七月九日現在)

編集後記

◆会報一九二号「総会特集号」をお届けいたしました。会員の皆様から玉稿や貴重な写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。
◆今号の表紙は、国宝『中空土偶』です。中空土偶は、南茅部遺跡群(著保内野遺跡)から出土したものです。
道内からの国宝指定は初めてで、縄文関係では三件目という貴重なものです。
なお、八月十九日まで市立函館博物館で、「甦る北の縄文ロード」と題して展示されておりますので、ぜひ、ご覧いただきたいと思っております。

◆夕陽書道展が七月十六日まで、函館市芸術ホールで開催され、九十二名の芸術性の高い作品が芸術ホールのギャラリーに並べられました。詳しい様子は次号で。
◆情宣部の今年度のスタッフは戸澤和彦(昭54卒上湯川小頭)古川邦彦(昭56卒千代田小頭)鎌田光穂(平3卒久根別小)です。どうぞよろしく願っています。
◆会務報告は紙面の都合により、次号へ掲載いたします。

(情宣部長 伊勢 昭記 昭49卒)
本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号(0138) 46-2235
夕陽会専用(0138) 34-5520
FAX番号(0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鷗亭)氏(昭4卒)